

ご寄付ありがとうございました

本会がお預かりした寄付金は、寄付者のご希望に基づき、本会事業の推進等に大切に使用させていただきます。

寄付者 (令和4年12月～令和5年5月) (五十音順) ※「寄付つき商品事業」覚書締結企業様

個人		団体	
梅津 由紀子 様	納身 小夜子 様	一般社団法人えにしにの会 様 ※	合同会社 H&Associates 様
大村 忠寛 様	藤河 成人 様	一般社団法人プラスらいふサポート 様 ※	笹丘校区社会福祉協議会 様
蒲生 清一 様	古田 正剛 様	株式会社大原キャリアスタッフ九州 様 ※	宗教法人真如苑 様
河野 翔馬 様	鳳凰 敦 様	株式会社Qtnet 様 ※	宗教法人清法山徳純院 様 ※
菊本 八千代 様	松田 潤嗣 様	株式会社スターサイトシステムズ 様	たまてばこ 様
倉住 翔太 様	松本 恭子 様	株式会社宣翔物産 様	翼 行政書士・社会福祉士事務所 様 ※
酒見 武志 様	宮崎 安一 様	株式会社ライフエッジ 様 ※	特定非営利活動法人市民後見センターふくおか 様
重盛 俊郎 様	山下 奈保美 様	九州商運株式会社 様	日産化学株式会社 福岡オフィス 様
竹山 真理子 様	山内 一弘 様	黒木農園 様	日蓮宗 本興寺 様
刀根 浩司 様	吉富 次男 様		

(このほか、匿名等で多くのご寄付をいただきました)



～介護支援ボランティア事業～

シニアの社会参加をポイント制で後押しする「介護支援ボランティア事業」では、ボランティア活動でたまったポイント数を「奨励金(現金)」が「市社協への寄付」のいずれかに選択できます。令和4年度は57名の方がご寄付くださいました。



赤い羽根共同募金会 から配分を受けました

共同募金会から令和5年度事業費として60,360,100円の配分を受けました。このうち、51,640,400円は、市内の校区社会福祉協議会の活動費として、他は市・区社会福祉協議会の事業費として大切に活用させていただきます。



注目の1冊

ボランティアたちの物語 東京2020 オリンピック・パラリンピックの記録 (日本財団ボランティアセンター 監修/小峰書店)



東京2020オリンピック・パラリンピックで大会と選手を支えたボランティアたち。彼らもまた、選手と同様に様々な背景や目的を持ってこの大会に臨んでいました。医師、通訳、視覚障がいのある学生など、ボランティアたちの想いと奮闘の日々を6つの物語で紹介します。

【お問合せ】
福祉図書・情報室 ☎731-2946



福岡市社会福祉協議会
福岡から
日本の社会課題を
解決する

【毎月の寄付者募集】

1日33円から
できるサポート

1日あたり33円または
任意の金額を毎月寄付
いただく継続的な支援
方法です。

※寄付金額の変更や停止は
いつでも可能です。



生活の危機にある人や子どもたちを
一人でも多く救うために、
あなたも「毎月の寄付者」になりませんか。

毎月 1,000円(1日33円)
毎月3人の買い物弱者に
生活必需品等の購入支援

毎月 1,500円(1日50円)
毎月5食 社協がサポートする
子ども食堂で温かい食事を提供

毎月 3,000円(1日100円)
年間10人の路上生活者等に
住まいを提供

毎月 5,000円(1日166円)
年間1人の親亡き後の知的障がい者
に金銭や生活の支援を提供

※詳しくは、福岡市社会福祉協議会のホームページをご覧ください。

ご利用
ください

本紙「ふくしのまち福岡」は、本会ホームページ (<https://fukuoka-shakyo.or.jp>) で公開しています。
また、朗読 CD も配布しております。お気軽にお問合せください。

この広報紙は共同募金配分金及び賛助会費を主な財源として作成しております。

社協だより

2023年・夏号

ふくしのまち福岡

NO. 130



コロナ禍でも人との「つながり」を途切れさせないボランティア活動

福岡市社会福祉協議会では、人との「つながり」や「顔の見える関係づくり」を大切にしながら、ボランティア活動の推進に取り組んできました。しかし、コロナ禍の約3年間、人との接触の機会を減らすことが求められ、多くのボランティア活動が様々な影響や制限を受けました。

そのような厳しい状況の中でも、多くのボランティアのみなさんが、様々な工夫をしながら「コロナ禍でもできること」に取り組み、活動を続けています。

今回は、コロナ禍においても活動を続けてきた2つのボランティアグループをご紹介します。



(写真提供・西日本新聞社)

ガイドボランティアサークル「風車」

視覚障がい者の外出支援(ガイド)を行なっている「風車」は、買い物や通院など利用者の日常生活に欠かせない外出の支援を続けてきました。

ガイドは、安全に利用者を目的地まで手引き(案内)するため、直接体に触れて密接することが避けられない活動ですが、事前の健康チェックや感染対策を徹底しながら活動を行ない、昨年度も1年間で200件を超える依頼に対応しました。

しょうばい どういち ざ 笑倍道一座

福祉施設や公民館などに訪問し、楽器演奏・踊り・マジックなどを披露する芸能ボランティアグループである「笑倍道一座」。コロナ禍で多くの集まりや会合が中止となり、活動に大きな影響を受けました。しかし、依頼があれば利用者との十分な距離を確保し、最大限できる感染対策を徹底しながら活動を続け、多くの人々に笑顔を届けてきました。

上記以外にも活動時間を短縮したり、密を防ぐよう活動形態を変更したり、オンラインを活用したりするなど、様々な工夫により活動を止めずに継続してきたボランティアグループや地域の活動が数多くあります。

コロナウイルスの5類感染症引き下げに伴い、今後少しずつボランティア活動が以前のような活発さを取り戻すことを願いながら、ボランティアセンターでは引き続き活動のサポートを行なっていきます。

【お問合せ】ボランティアセンター ☎713-0777



社会福祉
法人 福岡市社会福祉協議会

☎ 751-1121 FAX 751-1509

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-39
福岡市民福祉プラザ4階
URL <https://fukuoka-shakyo.or.jp>
Eメール sohmu@fukuoka-shakyo.or.jp



買い物支援ガイドブックをご活用ください

福岡市社協では、高齢や障がい、その他様々な理由で買い物にお困りの方を支援するため、区ごとに「買い物支援ガイドブック」を作成しています。

食料品や日用品を宅配してくれる商店のほか、理美容店やメガネ・補聴器販売店の出張訪問、移動販売などの情報を掲載しており、小さなお子さんがいるご家庭からご高齢の方まで幅広く活用いただいています。

この度、店舗情報を更新し、困った時の相談窓口の一覧を追加する等、リニューアルしました。『買い物支援ガイドブック』は、市社協・各区社協窓口で配布しています。

※本会ホームページ(右下QRコード)からダウンロードすることもできます。



ダウンロードはこちら！



お問合せ
地域福祉課
TEL.791-6339

病気の後遺症で重いものを持っていないため、お米を配達してもらい、助かっています。
(60代女性)



介護の仕事の魅力を発信「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2023」



【日時】令和5年10月7日(土) 10時～16時
【場所】市役所西側ふれあい広場

福祉や介護にかかわる施設・団体・学校・企業等が協働し、介護の仕事の魅力を発信する市民参加型イベント「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2023」に、本会も実行委員として参加しています。

イベント関連企画として、小学生を対象に「あったらいいなと思う夢の福祉用具」のアイデアを描いた絵を募集する「カイゴ・ミラリスケッチコンクール」(募集期間：7月20日～8月31日、詳細は本会ホームページ参照)を実施し、イベント会場で作品展示や入賞者の表彰式を行います。

当日は、最新の福祉機器の展示や電動車いすの体験、ハンドマッサージ、飲食等のブースも多数出展予定です。ぜひご参加ください。



▲昨年度の「カイゴ・ミラリスケッチコンクール」の表彰式

お問合せ

福岡市ボランティアセンター TEL.713-0777

令和5年度 第1回 終活応援セミナー

これからの人生をより良く生きるため「終活」について考えてみませんか。動画配信によるセミナーですので、スマホやパソコンなどで好きな時にご覧ください。

【テーマ】エンディングノートで備える「終活のこと」
動画① 医療のこと、考えておきませんか？～「もしも」に備える「ACP」～
動画② まずはチェック！おひとりさまにおすすめの制度 ※各約25分

【講師】吉田 時成(福岡市社会福祉協議会終活サポートセンター所長)
【公開期間】令和5年7月3日(月) 9時～令和6年3月31日(日)
【視聴方法】福岡市のホームページ(左下QRコード)からご視聴ください。
【参加費】無料 ※通信料は視聴者負担

「マイエンディングノート」情報プラザ(市役所1階)、各区役所の情報コーナー等で無料配布しています。

お問合せ
終活サポートセンター
TEL.406-0168
FAX.406-0169



令和5年度 福岡市市民後見人養成研修のご案内

判断能力が不十分な方の暮らしと財産を守るための支援を、地域住民の視点で行なう「市民後見人」を養成する研修(10月～1月 動画聴講や対面)を開催します。福岡市では、昨年度に初めて市民後見人が3名誕生しました。誰もが住み慣れた地域で安心して生活を送ることができる社会を実現するため、市民後見人の活動は大変注目されています。

研修を受講するためには、下記「事前説明」の動画聴講の上、申込が必要です。関心がある方は、まずこちらをご覧ください。

【「事前説明」動画聴講期間】
8月1日(火)～8月18日(金)
【動画聴講方法・応募資格・研修カリキュラム等】
本会ホームページをご確認ください。

お問合せ
あんしん生活支援センター
TEL.751-4338
FAX.406-0169



令和4年度 事業報告及び決算

長期化する新型コロナウイルスの影響により、日常生活は変化し続けています。地域における福祉課題が複雑多様化、深刻化する中、既存のサービスだけでは対応できない、いわゆる「制度の狭間」で支援を必要としている人たちが増えています。このような課題に対し、必要な支援を包括的に確保し、地域共生社会の実現を目指す総合的な支援策の展開が求められています。

令和4年度は、コロナ禍の中でも「活動を止めない」「つながりづくりを絶やさない」という方針のもと、「はなれてもつながる」「ちいさくあつまる」「ちいさくあつまるをつなげる」を基本コンセプトとして、「withコロナ」から「afterコロナ」までを見据えた地域福祉の実践を積極的に行ないました。

さらに、福岡市が令和3年度に設置し本会が運営を受託している「福岡市成年後見推進センター」の安定的な運営を目指すとともに、専門職によるアウトリーチ派遣などを試行的に行ないました。また、法人後見事業では、市民参加型後見人として経験を積んだ3名が福岡都市圏で初めて「市民後見人」として個人選任されました。

令和4年度の主な実施事業は、以下のとおりです。(重点事業を中心に掲載しています。)

1 住民主体の小地域福祉活動の推進

- ふれあいネットワークによる平常時の見守りと災害時の避難支援との連動の強化
- ふれあいサロンをはじめとする居場所づくりの強化
新型コロナウイルスの感染対策を講じた運営やプログラムの支援、「はなれても つながる」取組みの周知・啓発を行なったほか、介護予防機能強化に向けたプログラム指導者の派遣等に取り組みしました。
- 校区福祉のまちづくりプラン策定の推進
- 小地域での生活支援ボランティア活動の推進
- 多様な主体との連携・協働の推進

2 ボランティアによる社会参加の拡大

- ボランティアの参加や裾野の拡大
- 分野を超えた様々な人・団体等と協力した活動や連携モデルの開発
- 新たな社会課題への対応と課題解決力の向上
認知症の方を在宅で介護している家庭に訪問し、本人の見守り・話し相手や家族の相談に応じるボランティア(やすらぎ支援員)の派遣や養成・スキルアップに取り組みました。
- 災害時のボランティアや支援活動を円滑に進めるための日頃からの備え

3 社会課題解決モデルの開発と拡充

- 地域の子どもプロジェクト
企業等から物品や食料等を提供したいとの相談を受け、市内の子ども食堂との連絡調整窓口となり、寄贈のコーディネートを行ないました。
- 買い物支援
- 終活支援
- 社会福祉法人等とのさらなる連携・協働
- コロナ禍を乗り越え、地域共生社会の実現を目指す実証実験
- 「ファンドレイジング」を組み込んだ社会課題解決の仕組みづくり

4 権利擁護事業の拡充

- 持続可能な日常生活自立支援事業の実施
- 権利擁護支援の地域連携ネットワーク強化と成年後見制度の利用促進
- 本人を中心とした関係機関の連携・チームによる支援
- 法人後見事業の推進と市民後見の充実
市民参加型後見人として経験を積んだ3名が福岡都市圏で初めて「市民後見人」として個人選任されました。
- 信託制度を活用した新たな権利擁護の仕組みづくりの検討

5 居住支援の推進と空家・空室の活用

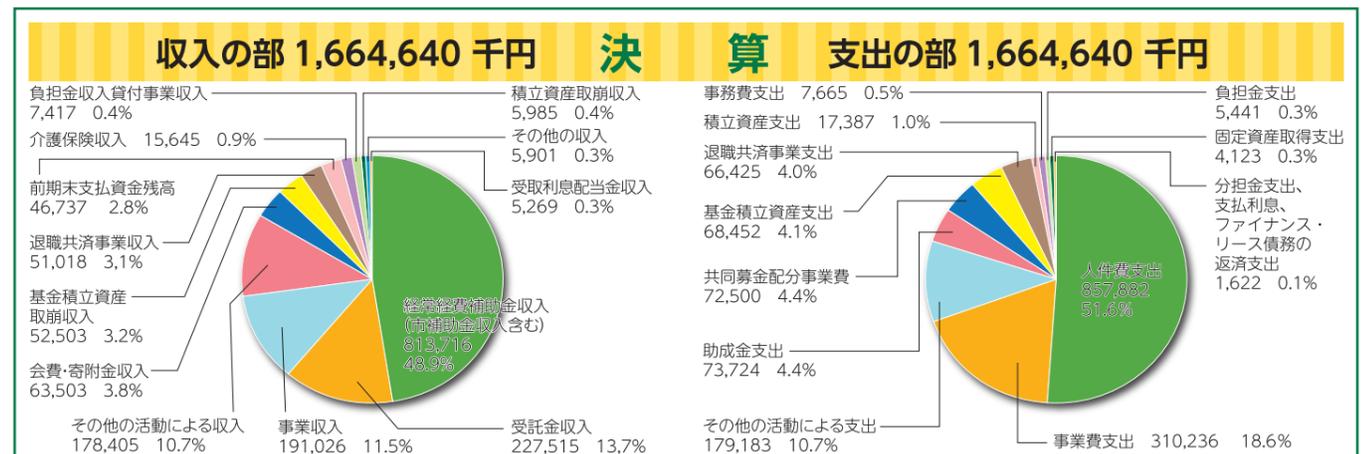
- 「断らない相談窓口」の運営
- 「住まいサポートふくおか」による住替え支援の実施
住替えに困っている高齢者や障がい者世帯を対象に、入居支援と入居後の生活支援のコーディネートを行ないました。
- 居住支援法人事業の実施
- 制度の狭間を埋める社協ならではの分野横断的な役割の実践
- 空家を福祉活用する「社会貢献型空家バンク」

6 地域福祉を推進するための基盤づくり

- 個人情報保護と活用
本会で作成した指針を使用し、個人情報の保護と活用に関する正しい理解を促し認識の共有化を図るとともに、地域福祉活動における個人情報取扱いのルールづくりに取り組むきっかけとなるよう、弁護士や大学教授による出前講座を実施しました。
- 福祉教育の推進

7 地域福祉ソーシャルワーカー(CSW)の機能強化

- 困難を抱えた人に寄り添いエンパワメントできる専門性を持つCSWの育成
- 様々な生きづらさや共通の問題を持つ方々が自主的につながり、相互に援助し合うセルフヘルプ(自助)グループへの支援
- 多様な相談機関・専門職等との連携強化
市社協本部に個別支援型のCSW(地域共生推進員)を配置し、分野ごとの制度では対応が難しい課題を、相談機関や地域資源等と連携し、アウトリーチ支援により解決するモデル事業に取り組みました。
- アウトリーチによる相談支援に対応できるCSWの人材配置



●令和4年度事業報告書・収支決算書は、本会ホームページ・総務課窓口で閲覧できます。